


燃料 無鉛レギュラーガソリン

 エンジンオイル・
作動油は
入っていません。

 以下の工具をご用意ください。
モンキーレンチ、ラジオペンチ（またはペンチ）、ゴムハンマー、13mm/17mm/19mmのスパナ各2本、マイナスドライバー、ワイヤブラシ

安全に正しくお使いいただくために、ご使用前に本ガイドとWEB取扱説明書を必ずお読みください。ご使用前に「安全上のご注意」を必ずお読みください。

詳細は
カラー版のWEB取説
をご覧ください



ハイガー株式会社はSDGs・カーボンニュートラルの取組の一環として、紙の取扱説明書を大幅に削減いたしました。どうぞご理解ください。



安全上のご注意


お使いになる人や他人への危害・財産への損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただくことを説明しています。


■表示内容を見逃して、誤った使い方をしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

 **警告** この表示の欄は「死亡または重傷を負う恐れがある」内容です。

 **注意** この表示の欄は、「軽傷、物的損害、故障が生じる恐れがある」内容です。



■お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

 このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。

 このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

日々製品（部品やカラーも含め）の改良を行っています。そのため、予告なく仕様を変更する場合があります。

警告（製品に係る安全事項）

 禁止		 強制	
	本機は、木を薪に加工する機械です。指定された用途以外には使用しないでください。		給油時は、付近にタバコ等の火気の無いことを確認してください。燃料は非常に引火しやすく、気化した燃料は爆発の危険があります。
	燃料の臭いがする場合、運転をしないでください。爆発の危険があります。		給油時、燃料タンクの給油限界位置を超えないようにしてください。温度上昇によって燃料が膨張し、漏れることがあります。
	エンジンの排気ガスには人体に有毒な成分が含まれています。特に一酸化炭素は無色無臭で非常に強い毒性があり、吸入すると死亡の恐れがあります。		給油は、身体に帯電した静電気を除去してから行ってください。引火の恐れがあります。
	エンジンが熱いうちは、給油しないでください。		給油中にこぼれた燃料はきれいに拭きとってください。燃料を拭いた布等は、火災に注意して処分してください。
	燃料が漏れたり、こぼれたままエンジンをかけないでください。		燃料を衣服にこぼした場合、直ちに衣服を着替えてください。衣服へ引火する危険があります。
	運転時、給油時、喫煙など火気を発生させないでください。		燃料タンクキャップは確実に締めてください。運転中にこぼれると火災の恐れがあります。
	換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。		可動部分の位置及び締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他動作に影響を及ぼす全ての箇所に異常がないか確認してください。
	可動している部分の近くに手または足を入れないでください。		運転前に燃料漏れがないか点検・確認してください。

警告 (製品に係る安全事項)



禁止

改造、分解は絶対に行わないでください。安全性・信頼性が低下したり故障の原因になります。また、弊社の保証サービスは一切受けられなくなります。

正しい操作を知らない人、子供、妊娠中の方には操作をさせないでください。

未成年者の単独の使用は禁止です。監督下で作業してください。

成年者でも、操作の仕方がよく分からない場合は、単独の使用をしないでください。

運転中に可動部(刃・ビーム等)に手や足及び衣類を絶対に近づけないでください。触れると巻き込まれ重大な事故の恐れがあります。

運転中は絶対薪を覗き込んだり、触れたりしないでください。

点火源となるような機器の近くに保管しないでください。燃料の蒸気へ引火する恐れがあります。

本機は日本国内の公道での牽引は禁止されております。あくまで私有地等を移動する際の補助的な使用としてください。



強制

エンジンを始動する時は、周囲に人や動物がいないことを確認してください。

使用中に異常音、異常振動があった時は、直ちに使用を中止し、点検、修理を行ってください。

可動している刃に接触すると負傷または死亡する恐れがあります。

点検整備を行なう場合はエンジンを停止してください。エンジンが不意に始動すると、思わぬ事故につながる恐れがあります。

点検整備はエンジンが冷えてから行ってください。エンジン本体やマフラー部のほか点火プラグの温度も高くなっており、やけどの恐れがあります。

破損した部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

修理の知識や技術のない方が修理しますと、十分な性能を発揮しないだけでなく、事故・怪我の原因になることがあります。



自動車で運搬する時は、燃料タンクの燃料を抜き、燃料コックを閉じてください。振動等により燃料が漏れることがあります。

長期保管する場合は、燃料タンクの燃料を抜き取り、火気のないところに保管してください。



本機をご使用になる前に、エンジンの始動、停止の仕方を覚えてください。

子供の手の届かない安全な場所に保管してください。



⚠️ 注意（製品に係る安全事項）

 禁止	<p>古い燃料は使用しないでください。</p>	 強制	燃料は無鉛レギュラーガソリンを使用してください。
			定期的にエンジンオイルを交換してください。
			給油中、燃料タンク内に雪や水が入らないように注意してください。
			使用中に異常音、異常振動があった時は、直ちに使用を中止し、点検、修理を行ってください。
			シートカバーなどは機械が十分冷めてからかけてください。
			部品交換は、純正部品を使用してください。
			定期点検整備を行ってください。



⚠️ 警告（作業に係る安全事項）

 禁止	身体の調子が悪い時や、判断力に影響するような酒類を飲用、または薬物を服用している時は、使用しないでください。	 強制	硬いコンクリートの地面もしくは、下に鉄板などを敷いた水平で安定した場所に設置してください。
	運転中に点火プラグキャップに触れないでください。感電する恐れがあります。		運転中は、排気ガスに十分注意してください。
	動作中に刃やビーム（H鋼）に顔や手足を近づけないでください。		停止中でも、直接刃に触れないでください。怪我をすることがあります。
	ご使用時は、使用者から15m以内は危険です。人やペットが入らないようにしてください。		エンジンの周りに、草や木クズなど燃えやすいゴミを蓄積させないでください。
	夜間、悪天候時、霧の発生時など、視界が良くない時は使用しないでください。		使用前にオイル漏れ、ネジの緩みや部品の欠落、ホースの亀裂・摩耗・破損等、各部に異常がないことを確認してください。
	足元が滑りやすい、転倒しやすい場所では使用しないでください。		長袖、長ズボンを着用し、すべりにくい安全靴、手袋、保護メガネ、ヘルメット、耳栓、防塵マスクなどの作業に適した服装を着用してください。
	地面が柔らかい不安定な場所で使用しないでください。		長い髪は束ね、帽子やヘルメットでカバーしてください。
	急傾斜地では使用しないでください。		適切な間隔で休憩をとってください。
	草地、砂利、その他柔らかい地面で使用しないでください。圧力をかけた時に本機が転倒したり、台座が破損したりして思わぬ事故につながる恐れがあります。		本機から離れるときは、必ずエンジンを停止してください。
	気温が高い時の作業は避けてください。		
燃料タンク内に燃料を入れたまま運搬、保管しないでください。			

⚠ 警告（作業に係る安全事項）

 禁止	機械の稼働部分に絡まるような衣服、装飾品、タオルなどは着用しないでください。	 強制	危険を感じたり、予測される場合も、必ずエンジンをすぐに停止してください。
	エンジンがかかっている状態で本製品から離れないでください。		少しの移動でもエンジンを停止してください。
			車等で持ち運ぶときは、エンジンを停止し、燃料タンクから燃料を抜取ってください。

⚠ 注意（作業に係る安全事項）

 禁止	エンジンがかかっている状態で本製品から離れないでください。	 強制	作業前に刃、ビーム（H鋼）に曲がり、破損がないか、台座に亀裂や破損等がないか点検してください。
			作業中に木がビーム（H鋼）側に強く当たったり、割れに異常を感じた場合には、速やかにエンジンを停止し、異常がないか調べてください。異常があった場合には、完全に補修した後でなければ本機を再始動しないでください。
			すべりにくい靴、手袋、保護メガネ、ヘルメット、防塵マスクなどの作業に適した服装を心掛けてください。
			万一に備え、救急箱、タオル、外部連絡用電話を用意してください。
			本機を長時間保管する時は、取扱説明書に従って保管してください。

各部の名称





梱包部品一覧

1. ユニットとすべてのアクセサリを慎重に箱から取出し、全てのユニット・アクセサリに不足・問題がないことを確認してください。
2. 製品を注意深く点検し、輸送中の損傷がないことを確認してください。万が一損傷が見受けられた場合は、運送会社に1週間以内に連絡をしてください。
3. 梱包材を慎重に検査し、使用する前に廃棄しないでください。不足している場合は、お手数ですが弊社までご連絡ください。

警告

不足しているものがある場合は、不足している部品を入手するまで使用しないでください。

A. エンジン 	B. シリンダー 	C. ビーム 	
D. 作動油タンク 	E. タイヤ 		
F. タワーヒッチ 	G. 牽引バー 		
H. ホイールキャップ 	I. シリンダーカバー 	J. カップ 	K. 取付用部品 

主要諸元

モデル名	HG-MKWR22T
エンジン型式	空冷4ストローク
総排気量	196cm ³
始動方式	リコイルスターター
馬力	6.5HP
粉碎力	22トン
サイクルタイム	オートリターン13秒
最大薪割り長さ	丸太直径610mm以下
薪割り方向	縦横兼用
ウェッジ(刃)	単刃7インチ
燃料	無鉛レギュラーガソリン
燃費(無負荷)	≤2.23L/H
燃料タンク容量	3.6L
エンジンオイル	SAE10W-30
オイルタンク容量	0.6L
作動油流量	41L/min
作動油	32番
おすすめ作動油量	約10L
オイルポンプ圧	24MPa
互換点火プラグ	BPR7ES(NGK)

◎弊社は、顧客満足度100%を目指し、日々製品(部品やカラーも含め)の改良を行っています。
そのため、予告なく仕様を変更する場合があります。
また、取扱説明書に最新情報が反映されない場合があります。ぜひご理解・ご了承ください。

組立て

⚠注意

- 取扱説明書をよく読んで正しく取付けてください。
- 作業は、自身や周囲の確認をしながら安全に行ってください。
- 組立ては2人以上で行ってください。
- 組立て時は、手袋などの保護具を使用し、長袖シャツを着用してください。
- 平坦で固い地面の上で組立て作業を行ってください。

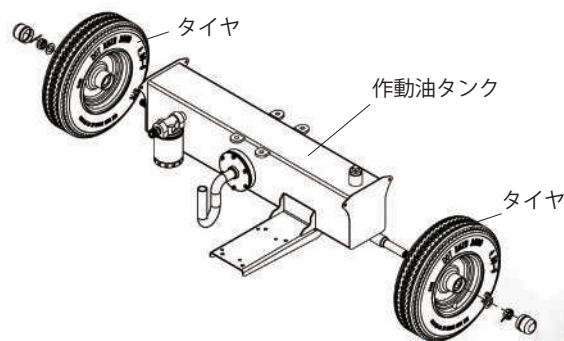
タイヤの取付け

作動油タンクのシャフトにタイヤを取付けます。

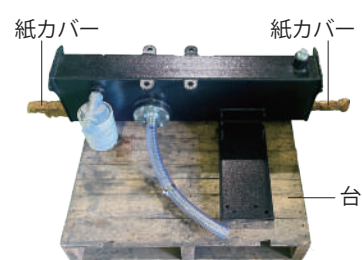
⚠注意

手袋を着用して作業を行ってください。

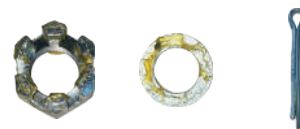
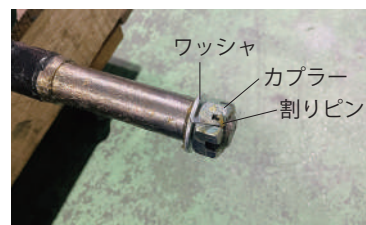
- 工具: モンキーレンチ、ラジオペンチまたはペンチをご用意ください。



- 1 タイヤを取付けしやすいように作動油タンクをタイヤの半径以上の高さがある台に載せます。台に載せたら、作動油タンクのシャフトに付いている紙カバーを取外します。



- 2 シャフトの左右に付いているワッシャ、カップラー、割りピンを取外します。



- 3** タイヤに付いているキャップを取外します。



- 4** 作動油タンクのシャフトにタイヤをはめます。バルブがある側が外側になります。

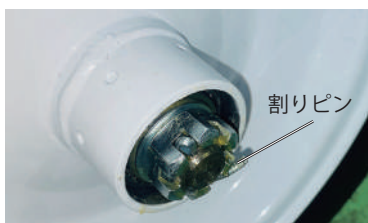


- 5** ワッシャ、カプラーを取付け、モンキーレンチで締付けます。



※カプラーをあまり強く締め過ぎないでください。タイヤの動きが鈍くなります。タイヤの動きが悪い場合は、カプラーを少し緩めてください。

- 6** シャフトの穴に割りピンを挿込み、抜けないように先端をラジオペンチまたはペンチで曲げます。



- 7** 反対側も同じ要領でタイヤを取付けます。

- 8** ホイールキャップを取付けます。きつい場合は付属のカップをキャップにはめ、ゴムハンマー等で叩きます。



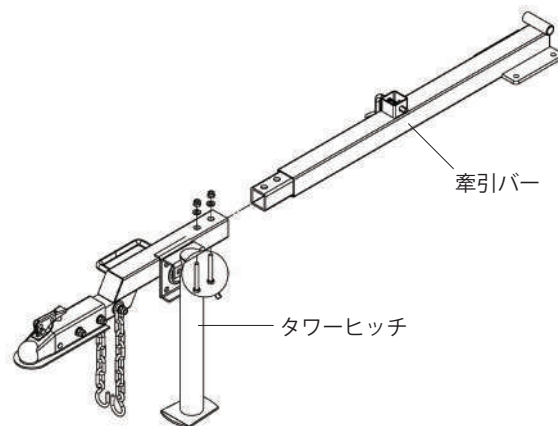
⚠️ 注意

カップは、ハンマーで強く叩きすぎると割れてしまいますので、優しく、徐々に叩いてください。

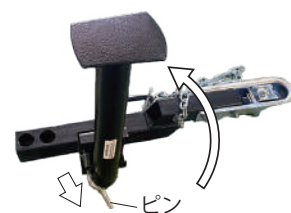
タワーヒッチの取付け

タワーヒッチに牽引バーを取付けます。
※牽引による公道走行はできません。

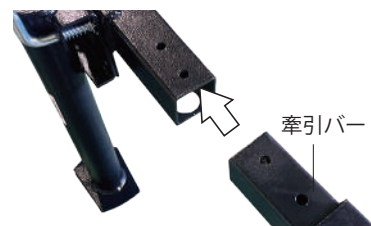
■工具: 17mm/19mmのスパナを各2本ご用意ください。



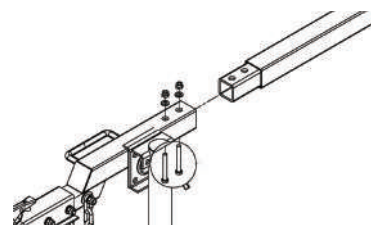
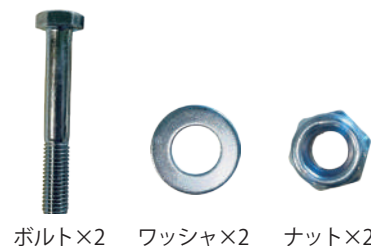
- 1** タワーヒッチのピンを引いて、足を立てます。



- 2** タワーヒッチに牽引バーを挿入します。

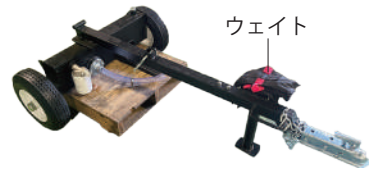


- 3** 牽引バーの下から2つの穴にボルト(M10×70)を通し上からワッシャ(Φ10)とナット(M10)を17mmのスパナで締めて、タワーヒッチと牽引バーを固定します。

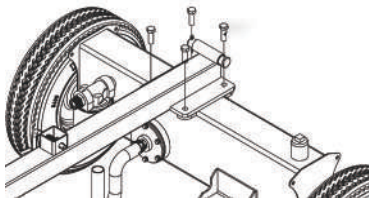
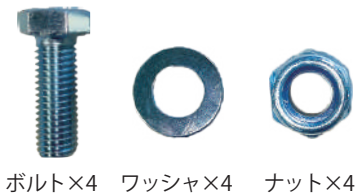




- 4** 組立てたタワーヒッチを作動油タンクに載せます。バランスが悪い場合はウェイトなど重い物でバランスを調整してください。



- 5** 取付穴を合わせて上からボルト (M12×35) とワッシャ (Φ12) を通し、19mm のスパナでナット (M10) を締めて、固定します。



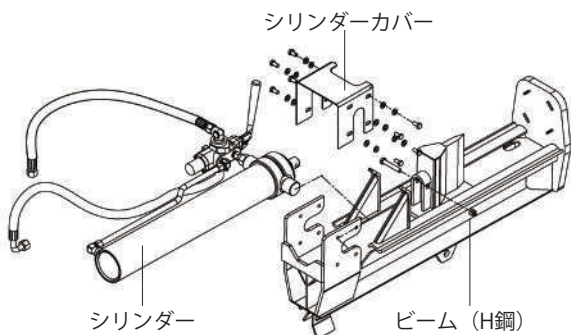
ビーム (H鋼) / シリンダーの取付け

作動油タンクにビーム (H鋼) とシリンダーを取付けます。

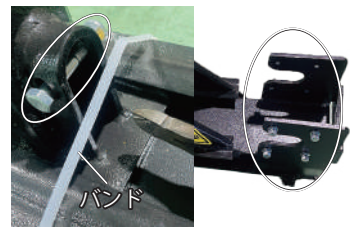
■工具: 17mm/19mmのスパナを各2本ご用意ください。

⚠ 警告

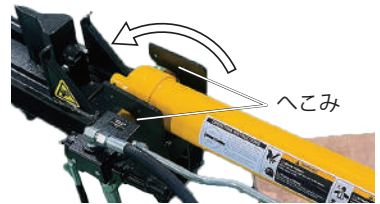
- シリンダーを立てる際は、転倒に十分ご注意ください。
- 万が一のことを考え、ベルト等でシリンダーを保持しながら作業を行ってください。
- 必ず作業は2人以上で行ってください。



- 1** ビーム (H鋼) の刃を固定しているバンドを切断し、ボルトとナットを取外します。右側にある取付用のボルト、スプリングワッシャ、ワッシャを一旦、取外します。



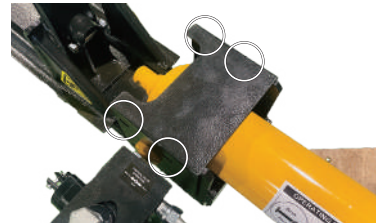
- 2** ビーム (H鋼) のへこみにシリンダーを入れ込みます。



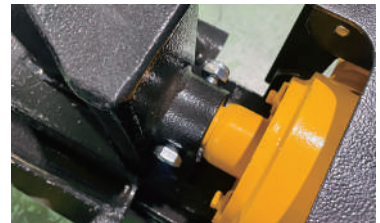
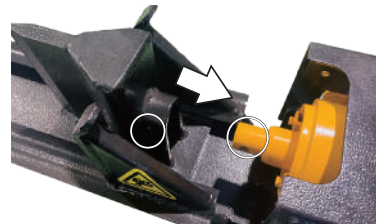
- 3** シリンダーをビーム (H鋼) に平行になるように角材等で高さを調整してください。



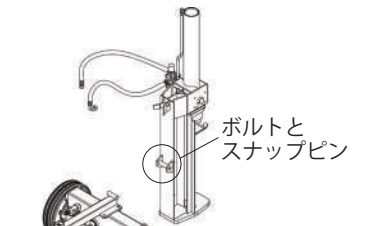
- 4** シリンダーにシリンダーカバーを取付けて、手順1で取外したボルト、スプリングワッシャ、ワッシャを19mmのスパナで固定します。



- 5** シリンダーの穴に刃側の穴を合わせて、手順1で取外したボルトを通し、ナットを17mmのスパナで固定します。



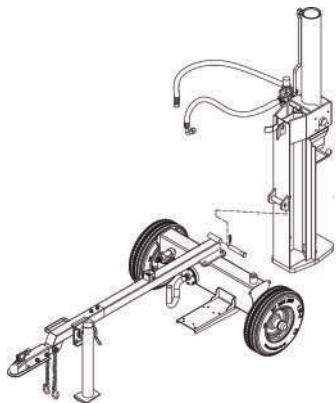
- 6** ビーム (H鋼) を立てて、仮留めしているピンとスナップピンを取外します。



⚠ 警告

ビームは非常に重いので、2人以上でゆっくり立ててください。

- 7** ビーム(H鋼)を立てて、タワーヒッチの穴に合わせて連結します。



- 8** 連結後ピンをはめ、スナップピンで固定します。



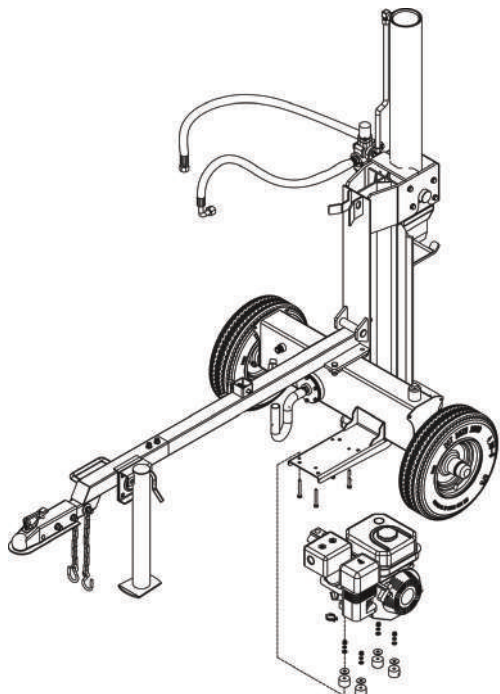
エンジンの取付け

ステアにエンジンを取付けます。

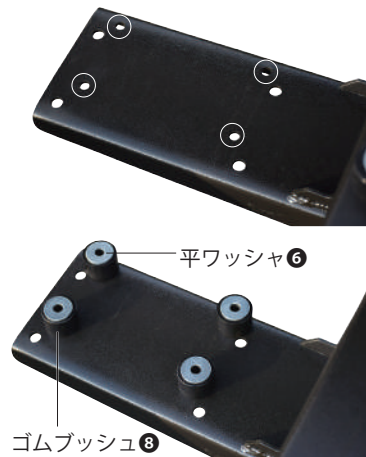
⚠注意

エンジンを落下させないように十分ご注意ください。

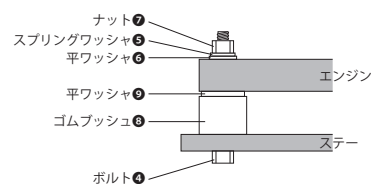
■工具：13mmのスパナ2本をご用意ください。



- 1** 作動油タンクのスターの取付穴に合わせて、付属のゴムブッシュ**8**と平ワッシャ**6**(Φ10)をセットします。



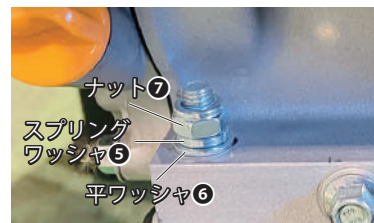
- 2** エンジンを乗せ、ボルト**4**(M8x65)をステアの下から通します。



- 3** 上から平ワッシャ**6**(Φ8)、スプリングワッシャ**5**(Φ8)とナット**7**(M8)を13mmのスパナで固定します。

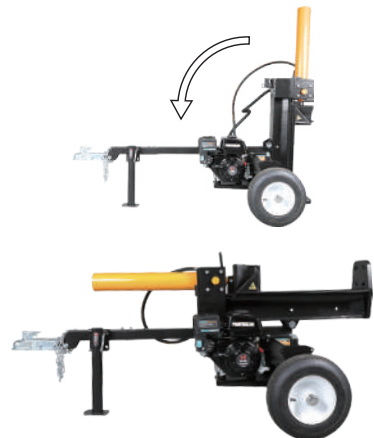


- 4** 4カ所を均等にスパナで締付けます。この時、ナットより上にボルトの山が3つ程度出くらい締付けます。



※締め過ぎに注意してください。ゴムブッシュが潰れて変形してしまいます。

- 5** シリンダーを2人以上でゆっくり倒します。

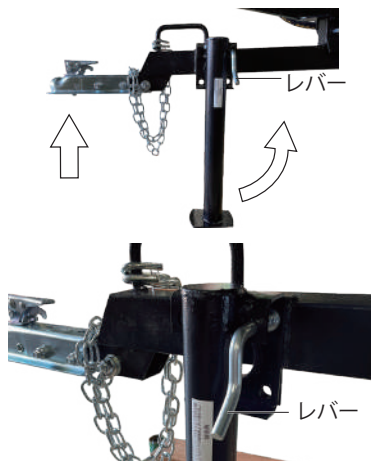


⚠注意

指などを挟まないように十分ご注意ください。

メインスタンドの折り方

- 1 タワーヒッチを少し持ち上げながら、メインスタンドのレバーを引き、スタンドを右に倒します。



オイルホースの接続

作動油タンクから出ているオイルホースをポンプに接続します。

⚠️注意

工場での試運転により、オイルが若干残っている場合があります。キャップを開けるとオイルが床に落ちることがありますので、事前にポンプ下にオイル受けや布などを置いてください。

- 工具：マイナスドライバーをご用意ください。

- 1 ホースバンドをマイナスドライバーで緩めます。



- 2 ポンプ下側のキャップを取外し、オイルホースをはめます。※オイルが出てくる場合がありますので、ご注意ください。



⚠️注意

必ずキャップを取外してから、オイルホースを取付けてください。

- 3 ホースバンドをドライバーで締付けます。



油圧ホースの接続

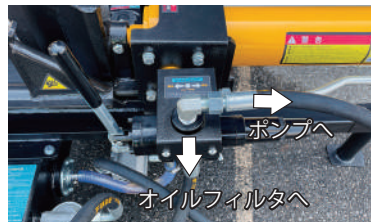
油圧ホースをオイルフィルタとポンプに接続します。

⚠️注意

工場での試運転により、オイルが若干残っている場合があります。キャップを開けるとオイルが床に落ちることがありますので、事前にオイル受けや布などを置いてください。

- 工具：マイナスドライバー、モンキーレンチをご用意ください。

- 1 コントローラ下側から出ている油圧ホースは、オイルフィルタに接続し、上側のホースはポンプに接続します。



- 2 作動油タンクに付いているオイルフィルタのコネクタに、シールテープを2~3周巻きます。(右巻き)



- 3 コントローラ下側から出ている油圧ホースの先端のキャップをマイナスドライバーで取外します。



※キャップ裏にあるパッキンは使用しないでください。オイル漏れの原因になります。(取外したキャップも不要です)



- 4** 付属のパッキンにグリスを塗布します。



- 5** オイルフィルタの接続口にパッキンをはめます。



- 6** 油圧ホースを接続し、モンキーレンチで締付けます。



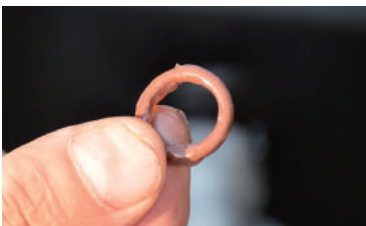
- 7** コントローラ上側から出ている油圧ホースの先端のキャップをマイナスドライバーで取外します。



※キャップ裏にあるパッキンは使用しないでください。オイル漏れの原因になります。(取外したキャップも不要です)



- 8** 付属のパッキンにグリスを塗布します。



- 9** ポンプ上部の接続口に、シールテープを2~3周巻き(右巻き)、パッキンをはめます。



- 10** 油圧ホースを接続し、モンキーレンチで締付けます。



- 11** 油圧ホースの接続完了です。



コントロールレバーの固定

- 1** コントローラに仮留めしているスナップピン、ピンを一旦取外します。



- 2** コントロールレバーの取付穴とコントローラの穴を合わせ、ピンを挿込みスナップピンで固定します。



運転前の準備・点検

警告



禁止

- エンジンが熱いうちは、給油しないでください。
- 燃料が漏れたり、こぼれたままエンジンをかけないでください。
- 運転時、給油時は、喫煙など火気を発生させないでください。



強制

- 燃料を補給する時は必ずエンジンを停止して、屋外の換気の良い場所で行ってください。
- 燃料をこぼさないように注意してください。所定のレベルを超えて補給しないでください。
- 燃料がこぼれた場合は、直ちに拭取ってください。
- 燃料は、無鉛レギュラーガソリンを使用してください。

注意



強制

- 燃料キャップは確実に締めてください。
- 長期間使用しない場合は、燃料タンクの燃料を抜き取り、火気のないところに保管してください。
- 給油中、燃料タンク内に雪や水、ホコリが入らないように注意してください。

燃料の給油

工場出荷時、燃料は入っていません。
下記要領で給油してください。

- 1 燃料を準備します。

使用燃料	無鉛レギュラーガソリン
タンク容量	3.6L

- 2 燃料給油キャップを開け、少しずつこぼさないように給油します。



- 3 給油後、燃料キャップをしっかり締めます。

エンジンオイルの給油

工場出荷時、エンジンオイルは入っていません。
下記要領で給油してください。

- 1 エンジンオイルを準備します。

推奨オイル	4ストロークガソリンエンジン専用 100%化学合成油SAE10W-30
オイル容量	0.6L

- 2 本体を水平な場所に移動させます。

- 3 オイル給油キャップを取外し、オイルゲージを布などで拭取ります。



オイル給油キャップ

- 4 エンジンオイルを給油します。

注意

エンジンオイルを入れる際に一度に規定量を入れてしまうと、エンジンテスト時のオイルが残っている場合がありオイルが溢れてしまうことがあります。オイルは一度に規定量を入れず、オイルゲージで確認しながら少しずつ入れてください。規定量入らなくても、ゲージで適量になっていれば大丈夫です。

- 5 オイル給油キャップを一旦締付け、再度取外します。

- 6 オイルが、オイルゲージのオイル量範囲(中央)までであるか点検します。



適正量はゲージの中央です。

- 7 確認後、オイル給油キャップを確実に締めてください。

- 8 使用2回目以降、運転前に必ずエンジンオイル量や汚れを点検してください。

作動油の給油

作動油は出荷時には入っていません。必ず給油してください。
また、工場ですり運転した際のオイルが若干残っている場合があります。

- 1 本体を水平な場所に移動させ、作動油給油キャップをモンキーレンチで取外します。



2 作動油が、オイルゲージのオイル量範囲(中央)まで来るように少しずつ給油します。この段階では作動油量は規定量には達しませんが一旦給油を終了します。



適正量はゲージの中央です。



使用作動油	ハイドロリックオイル 油圧用オイル32番
おすすめ作動油量	約10L

3 作動油給油キャップを閉めます。

4 作動油はエンジン始動後に追加給油をします。
(運転操作の仕方の「作動油の追加給油」参照)

潤滑油やグリスの塗布

可動部部分には、使用前に潤滑油やグリスを塗布する習慣をつけましょう。(詳細は、点検・整備の仕方「潤滑油・グリスの塗布」参照)

タイヤの点検

1 目視にて破損や亀裂が無いかを確認します。パンク、亀裂が見つかった場合は、修理または新品と交換してください。

2 タイヤの空気圧を確認します。
空気圧は2.1-2.3kgf/cm² (206-227kPa) になります。

運転操作の仕方

警告



禁止

- 燃料を補給した場所でエンジンを始動しないでください。
- 換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。
- エンジン回転中及び停止後しばらくの間はエンジンやマフラーなどが熱くなっています。触れるとやけどをすることがありますので高温部に触れないでください。



強制

- 本機はしっかりとした硬いコンクリートの地面もしくは、下に鉄板などを敷いた水平な場所に設置してください。
- 硬いコンクリートの地面もしくは、下に鉄板などを敷いた状態で作業を行ってください。
- エンジン始動後、異常を感じたり、予測される場合はすぐにエンジンを停止してください。
- 本機から離れる時は必ずエンジンを停止してください。
- 少しの移動でもエンジンを停止してください。

注意

エンジンを始動するときは、周囲に人や動物がいないことを確認してください。

エンジンのかけ方

出荷時には燃料、エンジンオイル、作動油は入っていません。給油後に操作をしてください。

1 コントロールレバーがニュートラルにあることを確認します。

2 アクセルレバーを、「うさぎ」と「かめ」マークの中間にします。



3 チョークレバーを左いっぱい(閉)にし、燃料コックを右いっぱい「ON」にします。



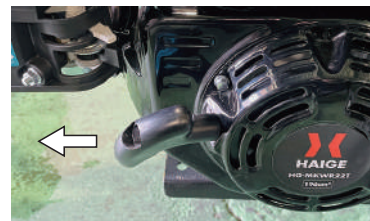
4 エンジンスイッチを「ON」にします。



警告

コントロールレバーがニュートラル以外にあるときは、絶対にリコイルスターターを引かないでください。破損するだけでなく、急に刃が動き出し事故の原因になります。

5 リコイルスターターを引きます。



6 エンジンが始動したらチョークレバーを右(開)に戻し、1~2分程度、暖気運転を行い、運転状況を確認します。

作動油の追加給油

初めて使用する場合、エンジンをかけると作動油が循環し、油圧システム全体に行き渡るため、作動油タンク内の作動油が減少しますので、作動油を追加給油します。作動油タンクのおすすめ作動油量は、約10Lです。

- 1 エンジン始動後、コントロールレバーを2～3回操作しシリンダーを動かします。その後エンジンを停止します。
- 2 作動油給油キャップを取外し、オイルゲージに付着した作動油を拭き取り、再度作動油給油キャップを締めます。
- 3 作動油給油キャップを再度取外し、オイルゲージの中央になるまで作動油を少しずつ給油します。



適正量はゲージの中央です。

※多く入れすぎるとキャップの穴からオイルが吹き出すことがあります。



使用作動油	ハイドロリックオイル 油圧用オイル32番
おすすめ作動油量	約10L

- 4 オイル給油キャップをモンキーレンチで締付けます。



エンジンの止め方

- 1 エンジンスイッチを「OFF」にします。
- 2 燃料コックを左いっぱい「OFF」にします。



👉 エンジンがかからない時

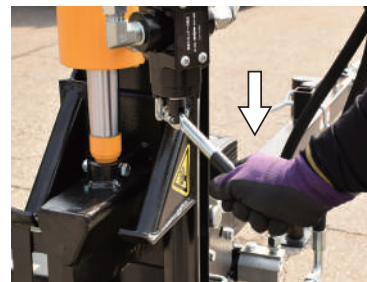
下記手順をお試しください。

1. 点火プラグキャップを取外します。
2. 点火プラグを外します。
3. リコイルスターターを数回引いて、シリンダ内を換気します。
4. 点火プラグの先端をウエス等で拭き取ります。
5. 点火プラグを取付けます。
6. 点火プラグキャップを取付けます。
7. チョークレバーを右（開）にします。
8. リコイルスターターを軽く引き、重く感じたところで一旦止め、ハンドルを一度戻してから、素早く引くとエンジンがかかります。

コントロールレバーの操作方法

縦割りの場合

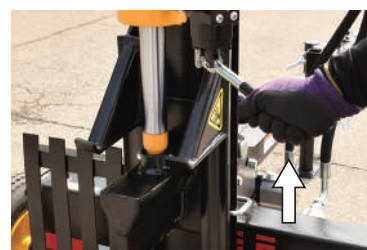
- 1 コントロールレバーを下降方向に倒すと、刃も下降します。コントロールレバーから手を放すと、レバーはニュートラルの位置に戻り、刃はその状態で停止します。(写真は別機種)



- 2 コントロールレバーを下降方向に倒し続けても、刃が台座に近づくと自動的に停止します。

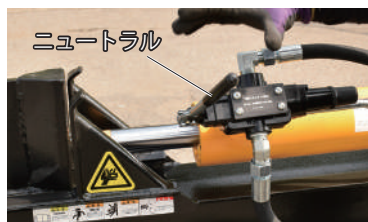


- 3 コントロールレバーを上昇方向に戻すと刃が上昇します。手を放しても上昇し続け、刃が最上部まで来ると自動停止し、レバーがニュートラルに戻ります。

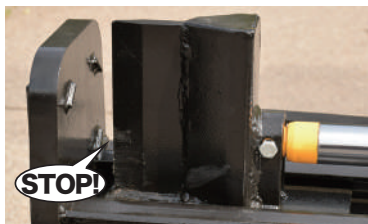


横割りの場合

- 1** コントロールレバーを前進方向に倒すと、刃も前進します。コントロールレバーから手を放すと、レバーはニュートラルの位置に戻り、刃はその状態で停止します。



- 2** コントロールレバーを前進方向に倒し続けても、刃が台座に近づくと自動的に停止します。



- 3** コントロールレバーを後進方向に戻すと刃が後進します。手を放しても後進し続け、刃が最も手前まで来ると自動停止し、レバーがニュートラルに戻ります。



シリンダーを立てる

警告

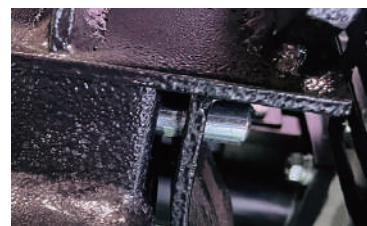
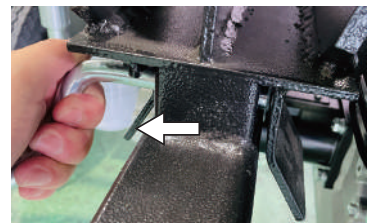
- 本機はしっかりとした硬いコンクリートの地面もしくは、下に鉄板などを敷いた水平な場所に設置してください。
- 硬いコンクリートの地面もしくは、下に鉄板などを敷いた状態で作業を行ってください。
- 万が一薪割機が動き出すのを防ぐため、タイヤは常に輪止めなどで固定してください。

警告

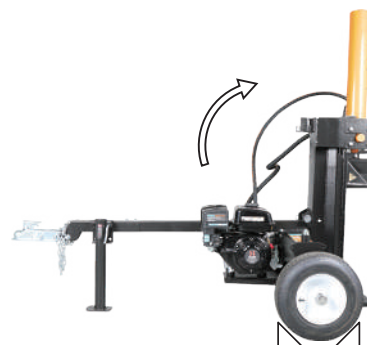
シリンダーを立てる作業は、必ず大人2人以上で行ってください。
本機の転倒などによる重大な事故につながる恐れがあります。

- 1** タイヤに輪止めをしセットします。

- 2** タワーヒッチとビーム (H鋼) をとめているビームロックピンを引張り解除します。



- 3** 2人以上でシリンダーとビーム (H鋼) を少しずつ持ち上げていきます。ハンドルを持つと持ち上げやすくなります。手や足を挟まないように十分に注意ください。



本規約は、ハイガー(以下「弊社」とする)を経由して販売させていただいた該当商品に関して保証する内容を明記したものです。弊社商品には商品保証書等は同梱しておりません。お客様の購入履歴や保証情報は弊社にて管理・保管しておりますのでご安心ください。返送いただく場合商品を再梱包していただく必要がございますので、梱包材はお捨てにならないようお願いいたします。

1. 保証の期間

商品発送日(ご来店引取の場合ご来店日)から1年間といたします。業務用・営業用として使用される場合、保証期間は6ヵ月といたします。保証期間を超過しているものについては、保証の対象外となり有償対応となります。商品発送日より7日以内の初期不良にあたる場合、送料・手数料弊社負担にて対応いたします。

2. 保証の適用

- ・お買い上げいただいた弊社商品を構成する各部品に、材料または製造上の不具合が発生した場合、本規約に従い無料で修理いたします。(以下、この無料修理を「保証修理」とする)往復送料や出張修理を行った場合の出張料は、お客様のご負担となります。
- ・保証修理は、部品の交換あるいは補修により行います。保証修理で取り外した部品は弊社の所有となります。
- ・本規約は、第一購入者のみに有効であり、譲渡することはできません。ご購入された年月日、販売店、商品、製造番号の特定ができない場合、保証が受けられない可能性があります。
- ・本規約の対象となる商品とは、日本国内で使用し故障した商品とします。日本国外に持ち出した時点で保証は無効となります。

3. 保証適用外の事項

- (1)純正部品あるいは弊社が使用を認めている部品・油脂類以外の使用により生じた不具合
- (2)保守整備の不備、保管上の不備により生じた不具合
- (3)一般と異なる使用場所や使用方法、また酷使により生じた不具合
- (4)取扱説明書と異なる使用方法により生じた不具合
- (5)示された出力や時間の限度を超える使用により生じた不具合
- (6)弊社が認めていない改造をされたもの
- (7)地震、台風、水害等の天災により生じたもの
- (8)注意を怠った結果に起きたもの
- (9)薬品、雨、雹、氷、石、塩分等による外から受ける要因によるもの
- (10)使用で生じる消耗や時間の経過で変化する現象(退色、塗装割れ、傷、腐食、錆、樹脂部品の破損や劣化等)
 - (11)機能上影響のない感覚的な現象(音、振動、オイルのにじみ等)
 - (12)弊社または弊社が認めているサービス店以外にて修理をされた商品
 - (13)使用することで消耗する部品または劣化する部品(ゴムを使用する部品、皮を使用する部品、樹脂を使用する部品、スポンジ類、紙類、パッキン類、ギヤ・ベアリング等の干渉する部品、ボルト、ナット、ヒューズ、モーターブラシ、チェーン、バルブ内部の部品、バネ、潤滑油、燃料、作動油、刃または先端部品、クラッチ、シャープイン等の緩衝部品、ワイヤ、バッテリー、点火プラグ等)
- (14)保証修理以外の、調整・清掃・点検・消耗部品交換作業等
- (15)商品を使用できなかったことによる損失の補填(休業補償、商業損失の補償、盗難、紛失等)

4. 別扱いの保証

部品メーカーが個別に保証している部品については部品メーカーの保証が適用されます。

5. 保証修理の受け方

まずはお問い合わせフォームにて弊社へご連絡をください。
またはお近くの修理協力店へご連絡をしてください。
症状・使用状況を伺い、手続方法をご案内させていただきます。

6. 注意事項

- ・動作点検を行ってから出荷しておりますので、燃料やオイル、水分が残っていたり、多少の傷や汚れ等が付いている場合があります。
- ・部品の在庫がない場合、お取り寄せにお時間をいただくことがあります。
- ・仕様変更などにより同時交換部品が発生する可能性があります。
- ・仕様変更などによりアッセンブリーでの供給しかできない場合があります。
- ・生産終了品につきましては、部品供給次第で修理不可能な場合があります。
- ・無在庫転売者(送り先が毎回違う購入者)の場合、転売者より購入した商品の場合、保証は無効となります。また発覚次第転売者への措置を取らせていただきます。

- アフターサービスについて■
1. 販売機種が対象となります。※弊社で商品をお買い上げの方に限らせていただいております。
 2. 生産終了品につきましては、部品供給次第で修理不可能な場合があります。
 3. 保証期間(1年間)を過ぎたものは、保証期間内におけるご使用回数に関係なく、すべて有償となります。
 4. 修理の際の往復の送料はすべてお客様ご負担となります。
 5. 修理協力店へご依頼の際は、直接修理協力店に修理代をお支払いください。